

賛 助 会 員

有限会社浜野顕微鏡 (〒113-0033 東京都文京区本郷 5-25-18)

神協産業株式会社 (〒742-1502 山口県熊毛郡田布施町波野 962-1)

理研食品株式会社 (〒985-0844 宮城県多賀城市宮内 2-5-60)

共和コンクリート工業株式会社 (〒060-0808 北海道札幌市北区北 8 条西 3 丁目 28 札幌エルプラザ 11 階)

株式会社KANSOテクノス (〒541-0052 大阪府大阪市中央区安土町 1-3-5)

株式会社日本港湾コンサルタント (〒141-0031 東京都品川区西五反田 8 丁目 3 番 6 号)

日本藻類学会和文誌「藻類」では広告を募集中です。詳細は編集委員会委員長までお問い合わせください。

皆様のご投稿をお待ちしています

和文誌「藻類」は会員の皆様の原稿で成り立っている雑誌です。原著論文のみならず、総説やミニレビュー、学術資料、その他の記事のご投稿もお待ちしています。ご投稿に際しましては、第 69 巻 2 号の p.133-136 に掲載された新しい投稿規定、執筆要項、投稿票、別刷・カラー印刷等申込書をご覧ください。新しい投稿区分、カラー印刷料金や別刷料金と、投稿者が査読候補者を指名し、希望する論文通信担当編集委員に投稿できるなどの審査体制が示されております。投稿規定、執筆要項、投稿票については日本藻類学会の WEB サイトからもダウンロードできます。(編)

編集後記

日本藻類学会学術賞の受賞記を読んで、河野先生の研究が多くの研究者や学生との関わりの中でドラマチックに展開していく映画を見ている様な気分になりました。また、特別賞の受賞記では原先生が藻類学会の運営にご尽力されてきた様子を伺うことができました。原先生の時代の幹事の方々のご苦勞を考えると、和文誌編集委員長として InDesign というこれまで使ったことがない癖の強い編集用ソフトをなんとか勉強しながら、過去の編集委員長の原稿の雛形を見よう見まねで版組を行って雑誌を作りはじめ、その DTP 作業を出版社に委託にするまでの移行期で私が行ってきた業務なんか、苦勞

とは呼べないものかもしれませんが、発行業務が出版社委託となって本当に良かったと思っております。これで、次の編集委員長に安心してバトンタッチができます。和文誌の即時公開も小亀会長のお骨折りの結果、私の任期中に実現することができました。和文誌掲載の報文は発刊と同時に日本藻類学会の WEB サイトからダウンロードして読むことが可能となっているのです!! 学会員でない方にも広く本誌を読んでもいただき、それがきっかけとなって学会員になって、やがて運営にまで参加してもらえる様になればいいですね!?

(芹澤 如比古)

表紙 アミジグサの成熟胞子体

制作者：新井 高博 (東京海洋大学)

制作者より：静岡県下田市恵比須島にて 2022 年 4 月に撮影しました。アミジグサは冬から春に成熟した胞子体が多く観察され、5 月頃に最も藻体が大きくなります。藻体表面がざらついて見える部分は四分胞子嚢です。